

## 腫瘍学特論

[講義] 1年・2年 後期 選択 30時間 2単位

《担当者名》○濱田淳一 [jun1hamada@hoku-iryo-u.ac.jp]  
熊谷歌織 [kaori@hoku-iryo-u.ac.jp]

### 【概要】

がん医療の実践において必要となるがんの分子生物学，病態生理学（遺伝学を含む），最新の治療およびがん予防医学について専門的知識を深める．学習過程において，最新の知見を踏まえた的確な臨床判断，健康問題の包括的なアセスメントについて考察し、高度実践看護師の役割を探求する．

### 【学修目標】

1. がんの成立過程，がんの特徴および転移のメカニズムについて説明できる
2. がんの診断法，治療の特徴およびがん予防医学の動向を理解する
3. がん医療に携わる高度実践看護師の役割を探求し自己の課題を考察できる

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	腫瘍学と高度実践看護師の役割	1) がん医療の動向 2) 腫瘍学の概要 2) 高度実践看護師が腫瘍学を学ぶ必要性	熊谷
2 3 4	がんの分子生物学 1	1) 正常細胞の増殖と分化 2) 正常細胞の死 3) がん細胞の誕生とがん細胞の特徴	濱田
5 6 7	がんの分子生物学 2	1) がん遺伝子とがん抑制遺伝子 2) がんの原因 3) 転移のメカニズム	濱田
8 9	がんと免疫	1) がんの発生と免疫 2) がんによる免疫抑制	濱田
10 11 12 13	がんの臨床医学	1) 診断と治療（遺伝子診断、病理診断、画像診断） 2) 集学的治療（手術、放射線、化学療法、免疫療法）と緩和ケア 3) 高齢がん患者，AYA世代に対する治療の動向と課題 4) オンコロジーエマージェンシー 5) 腫瘍遺伝学と遺伝カウンセリング	濱田
14	がんの予防医学 1	1) がんの疫学 2) がん予防医療の基礎	濱田
15	がんの予防医学 2	1) がん予防医療の動向と課題 2) まとめ	熊谷

### 【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学環、学校の授業実施方針による

### 【評価方法】

各単元での質疑応答（25%）、与えられた課題の調査（50%）、発表（25%）から総合的に評価する．

### 【参考書】

がんがみえる

### 【学修の準備】

Cochrane LibraryやPubMedなどを用いて、学修内容に関する情報収集をする（予習復習総時間：60時間）。

**【学習方法】**

課題のプレゼンテーションと講義，ディスカッションにより学習を深める．

**【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】**

本科目の内容は、看護学における高度な専門性と研究能力を修得するという看護学専攻博士前期（修士）課程のディプロマ・ポリシーに適合している。